

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月21日

【評価実施概要】

事業所番号	0873100648		
法人名	医療法人社団 正信会		
事業所名	グループホーム たんぼぼ		
所在地	小美玉市橋場美20-1 (電話) 0299-36-7110		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成20年6月25日	評価確定日	平成20年11月21日

【情報提供票より】(平成20年6月6日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年5月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	14人, 非常勤 人, 常勤換算 10人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋	造り
	1階建ての	～ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	250 円	昼食 350 円
	夕食	300 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成20年6月6日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	3	要介護2	4		
要介護3	5	要介護4	3		
要介護5	2	要支援2	1		
年齢	平均 81 歳	最低	66 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	美野里病院・宇野歯科医院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「やさしく、しんせつ、ていねいに」を理念とし、利用者と家族のような生活ができるよう、職員は静かで和やかな対応をしている。
法人の母体が病院であるため、眼科と歯科以外は24時間いつでも診察が可能であり、年2回の健康診断及び月2回の往診のほか体調の変化時に受診できる体制を整え、利用者や家族等にとって安心して生活できるホームとなっている。
法人の運営する施設間では夏祭りなどの行事、栄養士による献立や食材料の購入など支援や協力する関係を構築している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の11の改善項目について、法人上層部の考えにそわない項目については改善への取り組みが見られなかった。 職員が外部評価をいつでも閲覧できる体制までには至っていない。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価作成については職員が参加し管理者がまとめたが、自己評価の理解が不足しており、改善事項に積極的に取り組むまでには至っていないので、全職員で評価の意義を理解するとともに、サービスの質の向上に向けた具体的な改善に取り組むことを期待する。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は初回であったため、委員の自己紹介やホームの説明、年間行事報告、市からの説明、近隣の人から行政への質問で終わり、外部評価の結果報告や今後の運営方針を話し合うまでには至っていない。 運営推進会議を定期的開催することが望まれる。 また、会議で外部評価の結果を議題とし、質問、意見、要望などを十分に聞くとともに、サービスの質の向上に活かすことを期待する。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 重要事項説明書に苦情相談窓口と第三者機関を明示するとともに、玄関の分りやすい所にも掲示している。 玄関に苦情受付ノートを置いているが記入が皆無であるため、意見箱を設置するほか、無記名式のアンケートの実施を期待する。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の自治会や区会に加入している。 地域の夏祭りや花火大会などに参加し、地域の人々と交流している。 中学生の体験学習やヘルパー3級の実習、専門学校の実習を受け入れている。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての理念に見直すまでには至っていない。	○	全職員で相談し、地域密着型サービスとしての役割を目指した理念をつくることが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「やさしく、しんせつ、ていねいに」の理念をホールや玄関、事務室など人目に着きやすい所に掲示している。 管理者は毎日のミーティング時に職員と話し合うとともに、理念を共有し実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会や区会に加入している。 地域の夏祭りや花火大会などに参加し、地域の人々と交流している。 中学生の体験学習やヘルパー3級の実習、専門学校の実習を受け入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価作成については職員が参加し管理者がまとめたが、評価項目の理解が不足しており、改善事項に積極的に取り組むまでには至っていない。	○	全職員で評価の意義を理解するとともに、サービスの質の向上に向けた具体的な改善に取り組むことを期待する。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は初回であったため、参加委員の自己紹介やホームの説明、年間行事報告、市からの説明、近隣の人から行政への質問で終わり、外部評価の結果報告や今後の運営方針を話し合うまでには至っていない。	○	運営推進会議を定期的開催できるような委員に働きかけることが望まれる。 また、外部評価の結果を議題とし質問、意見、要望などを十分に聞くとともに、サービスの質の向上に活かすことを期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所を訪問し情報を収集するとともに、市が主催する会議に積極的に参加している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時には家族に利用者の状態を報告している。 訪問できない家族には、月に1回スナップ写真を同封した手書きの便りを送り、利用者の生活ぶりを報告している。 ホーム全体の様子を知らせる「ホーム便り」を発行するまでには至っていない。	○	「ホーム便り」を発行し、ホーム全体の様子や行事予定を利用者の暮らしぶりとともに定期的に知らせ、家族に安心してもらえることが望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情相談窓口と第三者機関を明示している。 また、玄関の分かりやすい所にも掲示し、苦情受付ノートを置いているが、これまでの記入は皆無である。	○	分かりやすい場所に意見受付箱を設置するほか、無記名式のアンケートの実施などを期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	慣れた職員が新しい職員に同行し、紹介してケアや会話をしながら利用者と馴染み、話しやすい関係をつくっている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修受講は一部の職員に偏っている。 研修受講後は全職員で内容を共有しているが、勤務3年以上の職員が段階に応じた研修を受けておらず、計画的な研修を実施するまでには至っていない。	○	職員が段階に応じた研修受講ができるよう計画を立てるとともに、研修に積極的に参加することが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協議会に加入している。 職員の勉強会や相互訪問は行っていないが市の働きかけにより、市内のグループホーム視察が予定されている。	○	管理者だけでなく職員も交流活動に参加し、サービスの質の向上に取り組むことを期待する。 同法人以外のグループホームを訪問し、同業者と交流を通じてサービスの質の向上を図ることが望まれる。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者のほとんどが運営母体の病院から直接利用となっており、在宅からの利用者は少ない。 利用前に見学に来た利用者と家族は18人中5人と少なく馴染みながらサービス利用を開始するまでには至っていない。	○	利用者が安心して納得のうえ利用が開始できるよう、前もって家族とともにホームを見学したり体験利用などにより、場の雰囲気に馴染んでから利用できるよう工夫することが望まれる。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と一緒にゆっくり会話を楽しめるよう時間づくりに工夫している。 利用者に教わりながら野菜作りをしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者一人ひとりの意向の把握に努めている。利用者にもそのときの気分を聞きながら、居室での食事を支援している。衣服の買い物を好む利用者の希望にそって買い物支援をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	管理者と職員及び介護支援専門員は日ごろから利用者一人ひとりの状況を把握するとともに、課題について話し合いをしている。介護計画は利用者の状況に合わせて具体的に作成している。家族に相談し捺印をもらっているが、印漏れが散見される。	○	面会に来られない家族には介護計画書を郵送するなどにより、相談することが望まれる。 介護計画を家族に提示した後の確認印の漏れがないよう期待する。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画書は利用者一人ひとりの日々の記録や1ヵ月毎の経過記録を参考に、関係者と話し合いながら3ヶ月毎に見直している。 また、状態に変化のあったときは随時見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	リハビリを希望者とする利用者の通所を支援している。利用者や家族の要望にそって協力医院のほか歯科医院や眼科医院への通院支援をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院からの利用であるためホームとの関係は良好で、急変時にも対応してもらえるなど医療体制が充実しており、利用者と家族は安心している		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に利用者と家族に説明しているが、意思確認書を取り交わすまでには至っていない。 ターミナルケアは協力医院の院長の指示に従っている。	○	意思確認書に基づいて、利用者とその家族の意思を確認することが望まれる。 ターミナルケアのマニュアルを作成することが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	理念に基づき言葉掛けに気をつけながらケアをしている。 個人ファイルは鍵を掛けて保管している。 ノート記入式の面会簿を使用している。		面会簿を利用者ごとに用意するなど工夫することを提案する。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	夕食から朝食までの時間が長いため、利用者の希望により午前7時半に朝食を用意し対応している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	収穫した山菜の皮むきを手伝ってもらったり、利用者と一緒に作った畑の野菜を食卓に載せ、利用者と職員がともに季節の味を楽しみながら食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週2回の決まりがあるが、痒がる利用者には希望した時にシャワー浴を支援している。 利用者の入浴希望回数は十分とのことであるが持病を持つ利用者等に配慮し、入浴支援は不慮の事故に対応できるよう病院の診察時間内に行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの力を活かし、洗濯物たたみや将棋、塗り絵、縫い物、カラオケなど楽しみや気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や野菜作り、買い物など利用者の希望にそった外出支援をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵を掛けることの弊害を理解している。 玄関にセンサーが設置されていないので、見守っている。 利用者が外出した時は一緒に歩くなど、職員間で対応策を相談のうえ共有するとともに対応策にそって支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、10月に避難訓練を実施する予定である。 車椅子利用者が多いとの理由から利用者全員の避難訓練を実施するまでには至っていない。 地域の企業に協力依頼をしているが、まだ実際に訓練に参加してもらうまでには至っていない。 非常食は、近々母体法人から配布される予定である。	○	災害時には落ち着いて安全かつ速やかに避難ができるよう避難訓練を定期的に行うことが望まれる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お粥、刻み食など母体法人の栄養士が作成したバランスの良い献立を利用者の咀嚼状態にあわせて提供している。 糖尿病など注意の必要な利用者には、医師の指示により状態を観察しながら服薬支援をしている。 水分は食事やお茶の時間、入浴後、就寝前など1日を通じて確保できるよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの掃出しにベランダを設置し、日光浴ができるよう工夫している。 テレビの前にソファを配置し、くつろげる空間づくりをしている。 職員はホールなどの共用空間に花を飾り、季節感に配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者や家族と相談し、仏壇、衣装箱、寝具類など馴染みのものを持ってきてもらい、利用者が居心地良く暮らせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。